福祉健康科学研究（18）089-095，2023

原著論文

インターネット上の「正義感に基づくコメント」の検証
－2022年秀岳館高等学校サッカー部の暴力事件を事例として－

河野　　洋

福山平成大学　福祉健康学部
（健康スポーツ科学科）

E-mail : kohno@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究は，インターネット上のネガティブなコメント（誹謗中傷，炎上等）がユーザの正義感に基づいて投稿されているという知見を受け，スポーツに関わる正義感に基づくコメントの存在と，その特徴を明らかにすることを目的とした．本研究では，2022年に秀岳館高等学校のサッカー部でコーチが生徒に暴力をふるっていたとされる事件を事例とし，実際に投稿されたコメントデータを用いて，正義感に基づくコメントの存在を実証することとした．

調査として，「Yahoo!ニュース」で配信された当該事件に関するニュース記事とコメントを収集し，コメント内容の精査を行った．その際，コメントデータの形態素解析によって得られた出現回数の多い語を特徴語とするコードの作成を行い，コメントのコーディングを行った．

結果として，当該事件に関する51,706件のコメントが収集された．また，これらのコメントから「社会正義」「責任の追及」「教育界への批判」など７つのコードが作成された．最も出現率の高かったコードは「社会正義」で，34.17パーセントだった．

本研究では，スポーツに関する正義感に基づくコメントが一定数存在することが明らかにされた．また，これらのコメントは投稿を正当なものとするいくつかの背景によって，誹謗中傷や炎上行為を正当化していることが示唆された．

KEY WORDS：インターネットコメント，正義感，暴力，部活動

1．緒言

インターネット上にみられる誹謗中傷や差別的なコメント・炎上現象などの「ネガティブなコメント」について，近年それらが「（コメントを向けられる対象が）間違っていることをしているのが許せない」「炎上は社会を良くしている」といったインターネットユーザの「正義感」に基づいて投稿されていることが指摘されている[1) 2) 3)]．インターネットコメントには遊戯性がその特徴として認められることもあるが，今日一部のユーザは特定の人物や集団・組織，社会に対するネガティブなコメントを投稿することに，行動としての正しさや必要性を感じていることになる．スポーツとインターネットとが互いの課題を解決に導き，持続的で良好な関係となることを模索している今日，このような投稿の動機の変化は無視することのできないものである．たとえば，誹謗中傷等の抑制のために取られる投稿内容の制限や特定のユーザの投稿を禁止する措置は，一部のユーザにとって「正義の抑圧」となろう．

一方で，インターネット上のネガティブなコメントを直ちに「正義感に基づく投稿」として解釈することは容易ではない．そのような解釈が妥当であるかどうかの判断を含めて，インターネットコメントについてはより多くの知見が必要とされている．たとえば，スポーツに関するインターネットコメントを鵜呑みにしたり無視したりすることができないとすれば，無数に存在するコメントのどれに注目すべきかを判断するための枠組みを示すことは有用であろう．それによって，あるコメントが正義感に基づく投稿として分類されることがあれば，インターネット上のネガティブなコメントをめぐる問題は，そこまでしてでもコメントを投稿しようとするユーザの動機に焦点を当てることが可能となる．

スポーツに関するインターネット上のネガティブなコメントへの問題意識が高まる中，本研究はそういったコメントを「正義感に基づくコメント」として再解釈し，投稿の内容と，ユーザがそれを正当な主張とする根拠について検証することとした．その際，本研究はインターネット上で正義感に基づくコメントが投稿されたと考えられる事例，換言すればスポーツに関わってインターネット上で炎上現象が起こった事例として，2022年の秀岳館高等学校サッカー部のコーチによる生徒への暴力事件（以降，「本件」とする）に焦点を当てることとした．本件においては，暴力（体罰）という社会通念としてもスポーツの理念としても望ましくない事由が中心となっており，コメントの正当性が事前に予見された．同時に，本件の一部関係者は特定されており，誹謗中傷をはじめとするネガティブなコメントの投稿も予見されるものとなった．

以上を踏まえ，本研究はスポーツに関するインターネット上のコメントから，正義感に基づくコメントの存在とその特徴をデータによって明らかにすることを目的とした．

2．方法

2．(1) データの収集・選定

インターネットニュース配信サービス「Yahoo!ニュース」（https://news.yahoo.co.jp／以降，「Yニュース」とする）で「秀岳館」をキーワードに記事検索を行い，ヒットした記事の本文をテキストデータとして収集した．また，Yニュースには記事に対しユーザがコメントを書き込める機能があるため，ヒットした記事に対するコメントもテキストデータとして収集した．

続いて，収集されたすべてのニュース記事より，本文を精査し本件に関わる記事のみを選定した．以上の作業によって，本研究の調査で用いる分析用データセットが作成された．

2．(2) コメントデータの形態素解析

分析用データセットのコメントデータについて，形態素解析によりコメント中に出現する語の種類と出現回数の一覧を作成した．なお，形態素解析には，計量テキスト分析のためのソフトウェア「KH Coder」（https://khcoder.net）を使用した．

2．(3) コメント内容の精査とコメントのコーディング

データセットのコメントについて，コーダー１名により内容の精査を行った．その際，形態素解析で出現回数の多かった語を中心に，コメント内容を特徴づける「特徴語」を抽出した．続いて，特徴語を基にコードを作成し，コメントのコーティングを行った．

2．(4) データの集計

コーディングの後，データの集計を行った．コメントは作成されたコード毎に集計し，コードの出現コメント数および出現率を算出した．

また，本件に関わる個人および組織として「学校」「監督」「コーチ」「校長」を含むコメントを抽出し，そ

れぞれの語を含むコメント毎にコードの出現コメント数および出現率を算出した.

3．結果

3．(1) 分析用データセットの内訳

本研究の調査で行ったデータ収集・選定の結果，180件のニュースと51,706件のコメントからなる分析用データセットが作成された.

表１　主な出現語（形態素解析の結果）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
学校	21574	大人	4748	責任	3577
生徒	19709	指導者	4747	サッカー部	3468
監督	15161	暴行	4641	部員	3429
暴力	14234	子供	4592	部活	2659
コーチ	9731	スポーツ	3985	事件	2601
動画	5895	指導	3952	人間	2550
問題	5895	サッカー	3906	教師	2508
謝罪	5455	教育	3875	嘘	2480
自分	5404	悪い	3768	解雇	2336
高校	5051	校長	3658	被害者	2332

3．(2) ニュース記事の概要

本件に関わるニュース記事が報じた主な内容としては，①当時のコーチがサッカー部の生徒に暴力をふるっている動画がインターネット上で公開されたこと（コーチは後に書類送検）[4]，②コーチの暴力についてサッカー部の生徒がSNSに謝罪動画を投稿したこと（後に削除）[5]，③当時の監督が謝罪動画を生徒主導だと説明するも，実際は監督が動画作成に関与していたこと[6]，④指導者と思われる人物が生徒を脅迫するような発言をしていた可能性があること[7]，⑤本件に関わって，監督が職を辞さず，進退について明言を避けていること（後に退職）[8]，⑥調査により，過去と合わせて53件の暴行が判明したことなどがあった[9].

その他の記事内容としては，本件について競技関係者や芸能人のコメントを報じたものや[10][11]，生徒側が新入生に対して暴力をふるっている疑惑のあることを報じたものなどがあった[12]．今回収集された記事の内容は，本件に関わる事実を報じるか，本件を非難するものであった.

3．(3) 形態素解析の結果

コメントデータの形態素解析を行った結果，22,421種・1,125,661語が抽出された.

3．(4) コードの作成とコメントのコーディング

表２　コード出現回数および出現率

コード	出現回数	出現率
社会正義	17,666	34.17%
謝罪の要求	5,336	10.32%
事実の追求	5,287	10.23%
責任の追及	10,387	20.09%
スポーツ界への批判	8,812	17.04%
教育界への批判	9,834	19.02%
大人への批判	7,733	14.96%
コメント総数	51,706	
コード無し	16,534	31.98%

コメント内容を精査した結果，本研究の調査では正義感に基づくコメントに関する７つのコードが作成された.

第１コードは「社会正義」である．社会通念や法の正義の点から本件を悪とする考えで，「暴力」「犯罪」「逮捕」などの語を含むコメントが該当した.

第２コードは「謝罪の要求」である．本件の関係者に公衆の面前で非を詫びることを求めるもので，「謝罪」「会見」の語を含むコメントが該当した.

第３コードは「事実の追求」である．本件の関係者が事実を隠しており，その事実は明らかにされなければならないとする考えで，「事実」「説明」「嘘」などの語を含むコメントが該当した.

第４コードは「責任の追及」である．本件に関わる個人や組織にしかるべき処分を求めるもので，「責任」「解雇」「廃部」などの語を含むコメントが該当した.

第５コードは「スポーツ界への批判」である．本件をスポーツ界全体の問題として批判するもので，「指導者」「体罰」「パワハラ」などの語を含むコメントが該当した.

表３　抽出語毎のコード出現回数および出現率

抽出語	コメント総数	＊社会正義	＊謝罪の要求	＊事実の追求	＊責任の追及	＊スポーツ界への批判	＊教育界への批判	＊大人への批判
学校	14933	6120	2268	2219	4274	3035	4327	3117
		40.98%	15.19%	14.86%	28.62%	20.32%	28.98%	20.87%
監督	11175	4449	1914	1793	3483	2290	2214	1804
		39.81%	17.13%	16.04%	31.17%	20.49%	19.81%	16.14%
コーチ	7531	4435	1427	1093	2188	1765	1642	1526
		58.89%	18.95%	14.51%	29.05%	23.44%	21.80%	20.26%
校長	3066	1126	527	471	998	430	831	470
		36.73%	17.19%	15.36%	32.55%	14.02%	27.10%	15.33%

第６コードは「教育界への批判」である．本件の責任の所在を教育界に求めるもので，「教育者」「部活動」などの語を含むコメントが該当した．

第７コードは「大人への批判」である．本件を加害者の「大人」と被害者の「子供」との関係から批判するもので，「大人」「子供」「守る」などの語を含むコメントが該当した．

３．(5) コード毎のコメント集計

作成されたコード毎にコメントを集計した結果，最も出現率が高かったのは「社会正義」のコードで，34.17パーセントだった．続けて「責任の追及」(20.09％)，「教育界への批判」(19.02％）の順に出現率が高かった．

「学校」「監督」「コーチ」「校長」のいずれかの語を含むコメントを抽出し，それぞれの語を含むコメントごとにコードの出現率を算出した結果，「教育界への批判」「大人への批判」は「学校」の語を含むコメントで，「事実の追求」は「監督」の語を含むコメントで，「社会正義」「謝罪の要求」「スポーツ界への批判」は「コーチ」の語を含むコメントで，「責任の追及」は「校長」の語を含むコメントで最も出現割合が高くなった．

４．考察

４．(1) 正義感に基づくコメントの存在とその特徴

本研究の調査では，本件に関する約5万件のコメントが収集された．発端は生徒に対するコーチの暴行の様子がインターネット上で公開されたことであったが，本件はその後様々な経緯の中で関係者を増やしながら，日常的な暴力の実態や部活動・学校の体質，大人が主導していくつかの事実を隠蔽しようとしたことなどが明らかにされた．本件の事件としての評価は別稿に譲るが，本研究の関心からすれば本件はインターネットユーザの様々な正義感に訴える事例であったと考えられる．

その中で，本研究の調査で最も多く認められたのは，「社会正義」を全うすることを訴えるコメントの存在であった．身分や年齢に関わらず法の下で人々は平等であり，悪事は罰せられなければならないという動機は，正義感に基づくコメントとして認められるものと考えられる．このコメントの特徴としては，特に暴行に対して「傷害罪」「犯罪」という表現を用いて，本件を批判することが個人的な価値判断や感情に寄るところでないことを示すところにある．換言すれば，本件に対する非難が社会正義に基づく正当なものであることを示そうとしていると考えられる．

それに対し，「謝罪の要求」「事実の追求」「責任の追及」については，監督やコーチと，生徒との間の不平等な関係が背景にあるといえる．不平等であること自体が直ちに問題となるわけではないが，本件の場合は監督やコーチが謝罪をせず，事実を隠蔽し，責任を逃れようとしているとされ，それに対し生徒が声を上げることができないと考えられている．この場合，生徒に代わって声を上げるインターネットユーザの動機は，弱い立場の者の代弁者となることへの使命感であるといえる．事実がうやむやにされ，権力を持つ人の不正がまかり通ってしまうことに対し，「誰も声を上げぬのであれば，自分が声を上げよう」とした結果が，謝罪を要求したり，事実を追求したりするコメントの投稿だと考えられる．

本研究の調査で扱ったコメントの一部は，本件という特定の出来事に対する反応として評価されるが，「スポーツ界への批判」「教育界への批判」「大人への批判」は本件に対する反応というよりも，スポーツ界や教育界への慢性的な不満や問題意識が，本件によって表出したものと考えるべきである．スポーツの場や教育現場での体罰やハラスメントは未だになくならない上，本件のような問題が生じてもスポーツ界は沈黙し，学校や教育委員会は教師や顧問を擁護する立場にいると一部のインターネットユーザは考えている．本件を解決の見通しの立たない問題として放置する人が出る中で，種々の不祥事に継続的に関心を向け，自浄作用の無いスポーツ界・教育界そのものを非難するコメントが一定数認められたといえる．

その他，本研究の調査結果が示す点としては，これら正義感に基づくコメントはそれを向けられる相手を区別されていることが示唆された．たとえば「校長」という対象はコーチの暴行が明らかになった時点ではほとんど認められなかったが，日常的に暴力があったのではないかという疑いや，監督やコーチがインターネットユーザの望む形で責任を取ろうとしない状況の中，全体を通じては本件に関して最も責任を追及されるべき存在となった．

４．(2) 「正義感」と「ネガティブ」の二面性

社会正義をはじめ，本件におけるインターネット上の正義感に基づくコメントには一定の理解ができると考えられる．インターネット上のコメントに同意・共感する

人の数を少ないと断言することはできないであろう．一方で，本研究の視座からすればこういった正当な主張が，誹謗中傷等のネガティブなコメントとして表出するところに問題があるといえる．本件においても，監督やコーチ，学校に対して多くの中傷が向けられたことは，分析を待たずとも多くのメディアによってすでに報じられている．

本研究の調査結果によって示された正義感の存在から，ネガティブなコメントについてはいくつかの解釈を試みることができよう．ひとつは，本件に対するコメントはあくまでも正当な主張であり，決して誹謗中傷や差別をする意図はない，とする理解である．ここでは正義を貫くことが第一目標であり，その結果としてコメントが誰かを傷つけたとしても，それは「些細な問題」となる．

あるいは，ネガティブなコメントを投稿しているユーザは自分のコメントによって誰かが傷ついたり，誰かに危害を加えたりする恐れがあることを理解していることも考えられる．その場合，ユーザはコメントを向ける対象を「誹謗中傷を受けるに値する存在」と考えている．炎上が起こるのは自業自得，因果応報であり，本件でいえば辛い思いをしたとされる生徒に代わり，その報いを与えようとするのが正義感に基づくネガティブなコメントであるといえる．さらに，一部のユーザは自らの望む結果に到達するために，誹謗中傷や炎上が有効な手段であると認識していることも否定できない．インターネット上の「正論」では現実社会に影響を与えることができない一方，対象に危険を感じさせるような発言をすることが今日では「実績のある」行動となっている．

いずれにしても，公に投稿することがよくない内容だと分かっていながら，あえてそれを投稿するのだ，とするユーザの意思は，自らのネガティブなコメントを最も正義感のある行動として正当化することとなる．人々の正義感の高まりが，ネガティブなコメントを一層引き起こす可能性を否定することはできないのである．

4．(3) ネガティブなコメントの問題に対する正義感へのアプローチ

本研究の中でインターネットユーザの正義感を増幅させ，ネガティブなコメントを誘発している原因として考えられるもののひとつが，スポーツ界・教育界や大人に対する期待と失望である．ユーザは自らの考える正義が遂行されることを望みつつも，現実社会にそれを託せる人物や組織がいないことを理解している．このような状況に無力感を抱く人がいる一方で，一部のユーザは一層正義感が増幅することとなる．

本研究の結果をもっても，インターネットユーザの正義感を全てにおいて肯定することはできない．正義感の奥にユーザのさらなる思惑があるかもしれないし，個人の正義感に基づく行動が社会にとって必ずしも有益になるとは限らないからである．その点を理解した上で，インターネット上のネガティブなコメントに関する問題を解決に導くひとつの方針として，インターネットユーザの正義感をなんらかの形で充足させることにその可能性を見出すことができると考える．重要なことは，インターネットユーザの考える正義を適切な手段によって実現することであり，それはスポーツ界や教育界が自浄的に行うことが最も望ましいと考えられる．

5．まとめ

本研究の目的は，スポーツに関するインターネットコメントをデータとし，「正義感に基づくコメント」の存在とその特徴を明らかにすることであった．2022年の秀岳館高等学校サッカー部での暴行事件に関するニュースとコメントを収集し，コメント内容の精査を行った．結果として，「社会正義」「謝罪の要求」「スポーツ界への批判」など７つのコードが作成され，これらのコードを含むコメントが正義感に基づくコメントとして認められた．

本研究はスポーツに関するひとつの事例を扱ったものであったが，作成された７つのコードには一般性を認めることができると考えられる．今後，他の様々な事例について検証を行う中で，インターネットユーザの正義感に対する根本的なアプローチを行うことが可能となろう．本研究のような関心において，「正義感」と「正義」との区別は重要となる．個人の正義感を，社会全体の正義に安易に置き換えることがあってはならない．逆に，インターネットコメントの内容をスポーツ界に反映させるためには，そのための適切な手段を検討していく必要がある．本研究のように，個々のコメントの表現に注目するのでなく，統計的分析によってコメントの意見や主張に着目する方法は，ネガティブなコメントと正義感とを切り離して考える上で有効な方法になり得ると考えられる．また，インターネットコメントに対し人々がどの程度共感を持っているかなど，インターネットコメントを「一部の過激なユーザの投稿」という認識だけでなく「一般の人々の代弁」として理解することの妥当性につ

いても検証されていく必要があると考える．

参考文献

1）山口真一（2016）．炎上加担動機の実証分析，https://www.sgu.ac.jp/soc/ssi/papers/32.pdf.（accessed 2022-09-20）

2）山口真一（2020）『正義を振りかざす「極端な人」の正体』光文社

3）法務省（online）．自粛警察と誤った正義感，https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken05_00055.html.（accessed 2022-09-20）

4）FNNプライムオンライン（2022）．無抵抗の生徒を殴る蹴る…サッカー強豪の高校でコーチが激しい暴行か　関係者からは「暴力行為は日常茶飯事」の声，https://www.fnn.jp/articles/-/350308.（accessed 2022-09-20）

5）THE PAGE（2022）．“大炎上”秀岳館サッカー部男性コーチの暴行問題の新展開に波紋…生徒の謝罪動画拡散の違和感，https://news.yahoo.co.jp/articles/f0551dda9a93ac1ba56117ab820ac296eb1dccc6.（accessed 2022-09-20）

6）日刊スポーツ（2022）．秀岳館の段原一詞監督、生徒謝罪動画に関与を認める「生徒たちに言われ…賛同した」，https://www.nikkansports.com/soccer/news/202205050000618.html.（accessed 2022-09-20）

7）THE PAGE（2022）．秀岳館サッカー部の暴行問題で衝撃の音声データが流出…指導者と見られる人物が動画投稿生徒を「俺が訴えたらどうなる？」と糾弾，https://news.yahoo.co.jp/articles/b31c0e8a6093e7e0f354090f6a1f02b4e735becf.（accessed 2022-09-20）

8）THE PAGE（2022）．なぜ秀岳館高校は問題を起こしたサッカー部の段原監督を厳重処分せずに本人は現職にしがみつこうとしているのか？，https://news.yahoo.co.jp/articles/7a0a63cbb78635fee5de9c05d80d6bf17995d500.（accessed 2022-09-20）

9）KYODO（2022）．校内の暴力53件、15人処分　サッカー部問題で熊本・秀岳館高，https://nordot.app/925709502800297984.（accessed 2022-09-20）

10）Smart FLASH（2022）．加藤浩次　『スッキリ』に出演した秀岳館高監督に「嘘をつきに来た」と怒り心頭…SNSであふれる同情の声，https://smart-flash.jp/sociopolitics/180752/1.（accessed 2022-09-20）

11）Sponichi Annex（2022）．松木安太郎氏　秀岳館高サッカー部“暴行騒動”に「暴力…いかに指導力がないかっていうことを」，https://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2022/05/08/kiji/20220508s00041000186000c.html.（accessed 2022-09-20）

12）熊本日日新聞（2022）．秀岳館高サッカー部、上級生が暴行か　入部控えた中学生の保護者、警察に被害届，https://kumanichi.com/articles/637182.（accessed 2022-09-20）

An Investigation of Comments Made with a Sense of Justice on the Internet -A Case Study of the 2022 Shugakukan High School Soccer Club Incident-

Yoh KOHNO

Department of Health and Sports Science,
Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

Adstract

This research uses the knowledge that negative comments (slander and flaming) made over the internet are posted based on a user's sense of justice and sheds light on said comments based on a sense of justice in the world of sport in addition to the characteristics of them. In this research, I will use the example of an incident at Shugakukan High School where the coach of the soccer team assaulted some of the students, using an actual data from the comments posted and demonstrate that comments based on a sense of justice exist.

As a form of survey, I collected together comments on the news article published by Yahoo! News regarding this incident and conducted a detailed examination of them. At this point I created a code that marked frequently appearing words as feature words via morphological analysis of the comment data and I proceeded to code the comments.

As a result, I collected a total of 51,706 comments on this incident. In addition, seven codes were created from these comments, including "social justice", "holding someone accountable", and "criticism of educational circles". The most frequently occurring code was "social justice", which accounted for 34.17%.

In this research, it was found that comments on sport based on a sense of justice do indeed account for a certain proportion of comments. Moreover, the background surrounding said comments making posts justified indicates that acts of slander and backlash are being legitimized.

KEY WORDS : Internet comments, Sense of Justice, Violence, Club Activities